

## 4 . 中心市街地・中山間地域の活性化について（茗荷幸也 / 大学生）

### （1）中心市街地における「スポーツファンの集う施設」の設置について

#### 茗荷幸也議員

私は、中心市街地の活性化を考えた際、スポーツファンの集う施設の設置が必要ではないかと思います。近年はサッカーブームで、日本中がにぎわいを見せています。それに伴い、最近ではテレビで県外のサッカーファンの集う施設が取材され、サポーターが熱狂している様子を見ることが多いように思います。このサッカーブームは都心限定の話ではなく、私たちの住む鳥取でもガイナレ鳥取を応援する動きが見られています。しかし、鳥取にはスポーツファンの集う施設がないように思います。この施設の設置により、鳥取駅前がにぎわいを見せるだけでなく、男女の出会いの場としても一翼を担う可能性もあると考えています。

そこで質問です。今後は、中心市街地の活性化に向け、どのような取り組みが必要だとお考えでしょうか。

以上で登壇での質問といたします。

#### 竹内市長

茗荷議員の御質問にお答えします。

中心市街地活性化の方策、取り組みということではありますが、これはかなり以前から中心市街地活性化の取り組みを続けておるわけですが、平成19年11月といいますから、今から3年強になりますが、その前に一番最近の中心市街地活性化基本計画というものを内閣総理大臣の承認もいただいて、これを実施しているわけではありますが、この計画によれば、街なか居住の推進とか広場、公園の整備、鳥取駅前広場のリニューアル、公共駐車場の整備、商店街に人の流れを生む社会実験、これまで非常に数の多い、60前後の多くの事業がそれに基づいて取り組まれてきておりますが、そういったことによりまして、町に魅力的な環境をつくり出そうという取り組みが続けられているわけであります。これの推進役としては、鳥取市中心市街地活性化協議会、それから関係の商店街、こうしたところと鳥取市が連携をしながら進めている状況であります。

その中の事業の一つとして、お話のありました鳥取駅周辺というところでの事業ですが、今年度より、23年度より市道駅前太平線に全天候型の芝生広場などの整備を行いまして、オープンカフェとかイベントなどを行うことのできる魅力的な空間をつくり出そうという事業が進行中です。鳥取駅前太平線再生プロジェクト事業という事業名でやっておりますが、この完成が平成25年2月に完成をするということでありまして。現在の鳥取大丸の太平線側

のエリアです。大丸の場所ばかりではなくて、グリーンホテルモーリスの前とか、その向こうの交差点のところまで、その内容であります。こうした面的な道路空間を一部、今申し上げました全天候型の芝生広場などを整備するとともに、そこで具体的なソフト面でのいろいろなイベントとか取り組みを商店街と連携しながら行うことで、新たなにぎわいを生み出す事業を予定しております。現在、その内容について新鳥取駅前地区商店街振興組合などと協議をしております。

昨年ガイナレのアウェイサポーターの皆さんも鳥取駅周辺の駐車場を利用したり、鳥取駅周辺の飲食店を利用していただいたりと、町の駅周辺の活性化に貢献をしていただいております。そういったことを考えると、お話にありましたようなスポーツファンの集う施設の設置、これは必ずしも公共的な施設という意味ではないと思いますが、民間の店とか、調べてみると今でも存在はしているようではありますが、そういったものが今後またふえてくるものと思います。

それと同時に、中心市街地の中では、パレットとっりの2階市民交流ホール、ここは公共的な、市民交流ホールという名前でもおわかりいただける空間でありますので、ぜひいろいろなスポーツファンの集い等を自主的にどんどん開いていただいて、御利用いただけたらと考えるものであります。ここの整備については鳥取市が主体的に行っている経過があります。大型のテレビモニター等も利用いただくことも可能だということで、パブリックビューイングとか、いろいろな取り組みに活用できるものと思います。

いずれにしても、若い方々に魅力のある中心市街地をつくるために今後とも取り組みを充実していきたいと考えております。ぜひとも中心市街地というところについて、余り関心がないとか、魅力を感じない、用がないとか、そういうふうに決めつけてしまわないで、町は生き物ですので、いろいろ変わってまいりますので、今後そういう中で、若い人が魅力を感じるいろいろなものが生まれてくる状況を今つくり出そうとしておりますので、そういった中で積極的にその空間を活用するというような発想で、多くの方に御利用いただければ、町もにぎわっていくものと考えております。

## (2) 鳥取市の特産品を活かした取り組みについて

茗荷幸也議員

ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

鳥取市に住んでいながら、最近では、鳥取市の特色を知る機会が少ないと感じています。まず、鳥取に在住されている方に鳥取市の特産物を知っていただくための広告が必要だと思います。鳥取市以外では味わうことのできない食べ物や、自然体験を県外にアピールする機会をふやすべきだと思います。例えば御当地バーガーショップなどの定期的な出店、鳥取の特産物の周知を目的としたブースの設置、鳥取の自然に少しでも触れていただけるような公園、もしくは体験型プログラムなどの開催が必要だと思います。

そこで質問です。鳥取市では、特産物を生かした取り組みとしてどのようなものがございますか。

### 杉本経済観光部長

お答えをいたします。

本市では、平成20年1月に鳥取市経済活性化戦略、平成20年5月には鳥取市地域ブランド創出活用方針、これらを策定いたしまして、地域資源である特産品を生かした産業振興を計画的に実施しているところでございます。

具体的には、事業者、生産者の特産品等のブランド化、あるいは販路拡大の取り組みを支援するとともに、農商工連携等によります新商品開発の取り組みに対しまして積極的に支援を行っているところでございます。あわせて、本市の魅力ある食、特産品をさまざまな媒体、機会により積極的に情報発信しているところでございます。

特に、市民はもとより、観光客を対象といたしました販売拠点、昨年6月に地場産プラザ「わったいな」がオープンをしたところでございます。また、平成14年11月からはいち、あるいは平成17年4月からは鳥取砂丘情報館サンドパル、また、平成18年4月には道の駅「神話の里白うさぎ」、また道の駅「清流茶屋かわはら」、これらを計画的に整備いたしまして、特産品等の販売、PR、観光情報等を提供しているところでございます。

また、本市では、平成15年度から地域の産物を地域で消費をするといった地産地消を市民にアピールをし、生産と消費を図るといったことを目的といたしまして、地産地消の店認定事業を行っております。昨年の12月末現在で97店舗を認定しているところでございます。この地産地消の店では、地元産品を使った料理が提供されております。市民の皆様を初め、観光客の皆様にも地元産品のPRに一役を買っているといった現状がございます。

そのほか、首都圏や関西圏を初め、国内姉妹都市等で物産展等に積極的に参加をしております。また、環日本海諸国の韓国、中国、ロシア、あるいは台湾へ、本市の特産品のPRや販売に取り組んでいるところでございます。

また、昨年4月からは新たに公式インターネットショップ「とっとり市」を開設いたしまして、参加事業者の皆さんと連携をして、鳥取市のすぐれた物産を広く国内外へPRをし、販売をしているところでございます。

最後に、来年度の新たな取り組みを御紹介させていただきます。

6月9日、10日には、本市で開催をされます近畿・中国・四国B-1グランプリ in TOTTORIを開催いたします。ご当地グルメフェスタにおいても県内外の多くの来場者を10万人見込んでおりますが、とうふちくわ、あるいは鳥取カレー、ホルモンそば等、鳥取のB級グルメをPRしたいと考えております。また、あわせまして、鳥取市街地や観光地におきまして、鳥取の食や特産品を一層積極的にPRに努めてまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

### (3) 鳥取市の自然や歴史的名所を活かした新観光コースについて

茗荷幸也議員

ありがとうございました。

最後になりますが、重ねて質問いたします。

鳥取市には城や城跡があると思うので、城をアピールする応援隊のようなものが必要だと思います。例えば城の歴史や、当時、人が城に住んでいたころを体験できるコーナーなどを設置するとおもしろいと思います。歴史の舞台となった場所をより多くの方に知っていただくためにアピールするとよいと思います。このような歴史的名所を活用するとともに、近くにお食事どころがあれば客足がふえると思います。

そこで質問です。鳥取市では、自然や歴史的名所を生かした観光コースの新たな作成について、どのようにお考えになりますか。また、鳥取市では、歴史的名所のコースを回るといった取り組みはされていますか。

竹内市長

お答えします。

まず、城が出てまいりました。鳥取城の修復整備を計画的に進めようとして、基本計画を立てて、実施の段階に今入っていると。先般、お堀の水の水位がずっと下がっていたと思いますが、水を減らして、西高に上がっていく橋のところの水位をずっと下げて調べてみたら、以前の木橋のときの基礎が出てきたと、柱の一部なども残っていたということで、鉄筋にかえるすぐ前の木橋もあるけれども、それとまた別に、それより古い時代の木橋の遺跡も出て

きたということで、新たにその橋を修復できる、歴史的なものとして再現することができるといったような資料が手に入ったという報告を受けております。城の修復実現とともに、やはりそこでのいろんなドラマ、最近の地方紙で紹介されたのでは、吉川経家公の漫画がまた新たに連載がされて人気を博しているということがありますし、そういったさまざまなお城をめぐる動きが現在ございます。ぜひお城に注目して歴史を考えたり、興味を持ったりしている方はたくさんおられるので、そういったお城のファンといいますか、あるいはそれがアニメになってくれば、そのアニメファンも含めて多くの関心を引くと思います。一つの大きなポイントになるということは私も考えております。仁風閣で「るろうに剣心」のロケが行われましたけれども、その映画もこの夏、封切りされるということで、そのロケ地を見に来られる新たな観光客もふえるのではないかと考えておりますが、そういったことも含めて、今、お城、あるいはその周辺についての関心が高まっていると申し上げたいと思います。

それから、自然とか歴史的な名所をつないだような観光コースというのは、以前からいろんなものを提供しておるわけですが、最近の例を少し紹介しますと、鳥取市観光協会に所属している4名の観光アクションプランナーが四季ごとに新たな観光コースを作成して、県外の旅行業者に売り込みに出かけているといったこともございます。鳥取市だけでも相当そういう取り組みがなされますが、鳥取市の周辺の東部の4町、1市4町、東部にある4町とあわせて、因幡の観光という形でもさらにそういった展開ができます。鳥取市観光協会では、法人化に伴って、第三種旅行業の免許取得に向けた取り組みも開始されておりまして、積極的な観光客誘客の観光コースを販売していくということが、今、間もなく具体化することになります。これまでも観光コースはパンフレットとかいろんな情報発信の中で我々としては作成をして、そして提供しているところであります。こうしたことについてはしっかりとこれからも取り組みを充実強化させていきたいと思っております。

**茗荷幸也議員**

御答弁いただき、ありがとうございました。